

腎障害の新規バイオマーカー開発と評価

薬学科（分子臨床薬理学分野） 森 潔

● 連絡先 TEL：054-264-5803

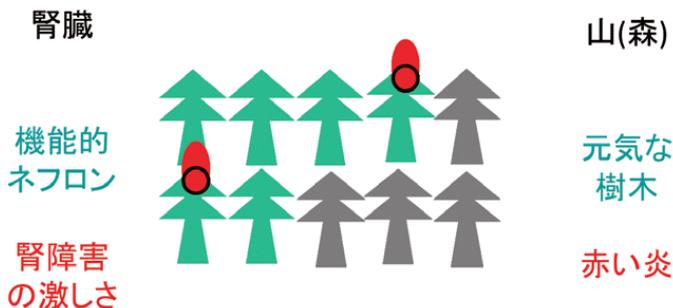
キーワード

バイオマーカー, 急性腎障害, 慢性腎臓病, 糖尿病性腎症, 蛋白尿, 腎機能低下, 再吸収

neutrophil gelatinase-associated lipocalin (NGAL)研究者の一人として、NGALには腎分化誘導作用と急性腎障害軽減作用があること、急性腎障害および慢性腎臓病において尿中NGALが病態の変化を反映して早期に変動することを報告してきました。急性腎障害はこれまで血清クレアチニン値上昇あるいは尿量減少により臨床診断されてきましたが、尿中NGALを補助診断として使うことで、急性腎障害の早期診断や重症度予測に有用であることを示す報告が蓄積され、厚労省による保険診療への収載や国内の急性腎障害ガイドラインへの採択につながっています。

最近では京都大学医学部腎臓内科との共同研究により、尿細管での蛋白再吸収がゼロのマウスを作成し、糖尿病性腎症の糸球体過剰濾過の病態においてクレアチニンのみならず、確かにアルブミンの濾過亢進が起こっていることを初めて証明し、治療における腎血行動態の是正の重要性を改めて指摘しました。

「腎不全の山火事理論」 *Kidney Int 2007* 日本腎臓学会 2007



血清クレアチニン値や推定糸球体濾過量は残存腎機能の指標である。これからは腎障害の勢い、山火事の炎の量を見ながら、腎臓病診療を行う時代が来るものと考えられる。

アピールポイント

尿中新規バイオマーカーを用いた新しい腎臓病治療薬の効果判定について共同研究をさせて頂きましたら嬉しいです。